

第七節 敷設、掃海、爆雷投射等ニ關スル操式教範

第一項

水雷(視發水雷機雷)

水雷敷設、爆雷、爆雷投射ニ關スル操式教範

第一目 操式

當初ハ各實施部隊各自ニ適宜操式類似ノ規定ヲ定メ實行シ來レル狀況ナリシガ明治二十九年頃敷設水雷操法草案ナルモノヲ海軍水雷術練習所ヨリ假配布セシコトアリシモ尙實施部隊ノ重用ヲ見ルニ至ラザリシガ更ニ數年ヲ經過シ明治三十四年五月ニ入り内令第五十六號ニ依リ茲ニ敷設水雷操式ノ制定ヲ見タリ蓋シ此種操式ノ嚆矢ニシテ制定理由トシテ舉示セラルルモノ次ノ如シ

理由

我海軍ニ於テハ未ダ敷設水雷ニ關スル操典ナキガ爲ニ其ノ操練各隊區々ニ亘レリ故ニ本操式ヲ制定シ以テ準據スル所ヲ知ラシメ其ノ作業ヲ完全ニシ且斯術ノ進歩ニ資セシムトス

之ヨリ先キ明治三十二年九月十二日吳水雷團第一兼第二水雷敷設隊司令海軍中佐牧村孝三郎ハ海軍大臣山本權兵衛ニ本件ニ關シ左ノ通上申セリ

海軍敷設水雷操式御制定相成度意見上申

從來砲術上ニ關シテハ種々ノ程式操式等御制定ニ相成其ノ結果ハ從ツテ軍隊兵員ノ動作ハ一號令ノ下ニ能ク指揮者ノ意思ニ從テ敏捷活潑ノ運動ヲナシ兵員ハ上將校ノ下セル號令命ヲ洞察シ將校ハ下兵員ノ行フベキ動作伎倆ヲ明知シ以テ作戰上ニ遺憾無カラシムルヲ得ベシト雖獨リ敷設水雷ニ關シテハ現今已ニ九敷設隊ノ多キニ達シ尙後來擴張セラルル今日ニ於テ之ニ從事スル隊員モ又少々ニアラズ且已ニ經年ニ於テモ又少ナカラザルニ斯術ニ關シテハ未ダ操式ノ如キ一定セルモノ無之ノ結果上下意思動作ヲ異ニシ會々經驗伎倆アル司令ヲシテ其ノ職ニ就カシムルモ砲術ニ於ケル如ク一號令ノ下ニ敏捷ノ運動ヲナシ迅速ニ準備敷設セシムルヲ得ルニハ更ニ幾多ノ訓練ヲ經タル後ナラザルベカラザルハ從來小官ノ已ニ屢々經驗致候處ニ有之候而シテ其ノ切角ニ訓練ノ目的ニ達シ

タル隊員モ我海軍ニ於テハ種々ノ御都合ノ爲ニ常ニ同隊ニ永ク勤務スル能ハズ類々交代スルノ今日ニテハ新任者ハ偶々斯業ニ經驗アルモ曾テ自己ノ積ミタル經驗訓練モ異リタル隊ニハ更ニ効能ナク從テ又上下ノ意思動作ヲ一致セシムル爲ニハ幾多ノ訓練ヲ要スル現今ノ状態ニ於テハ斯業ニ從事スル隊員ヲシテ常ニ熟達精練ノ度ヲ維持スルハ頗ル困難ノ儀ト被存候今後不利益ヲ避クル法ヲ求ムルニ速ニ敷設水雷操式ナルモノヲ御制定ニ相成之ニ依テ我海軍ノ各敷設隊ヲシテ一度訓練セシメバ各隊ノ將校兵員ハ他日他隊ニ轉ズルモ被砲術ニ於ケルガ如ク自己ノ經驗ハ又他隊ニ向テモ充分ノ効能ヲ現ハシ平凡ノ人ト雖尙能ク彼複雑ナル水雷敷設事業ニハ遺憾ナキニ至ルベク況ンヤ幾多ノ教育伎倆アル我軍人ニ於テハ其ノ利擧テ計ルベカラザル被存候之ニ由テ小官ノ今般編纂仕候別冊敷設水雷操式ハ可及の理論ヲ避ケ敷設隊員ノ上將校ヨリ下四等水兵ノ執務上ニ關スル一般ノ實際の事項ヲノミ集メ專ラ簡單ヲ主トシタルモノニシテ布設隊ニ於テハ有益ノモノト被存候間右詮議相成度意見上申候也

乃チ海軍大臣ハ敷設水雷操式ノ必要ヲ認メ横須賀鎮守府司令長官宛海軍水雷術練習所ニ於テ實地研究セシメ何分ノ意見ヲ申出ツベキ旨令シ水雷術練習所ニ於テ爾後審査研究ノ結果三十三年五月十一日附水雷術練習所長内田善太郎ハ横須賀鎮守府司令長官宛左ノ通報告セリ

牧村海軍中佐提出敷設水雷操式條項改訂ノ儀ニ付報告

横領第三七八四號(官房第四一五三號)ヲ以テ海軍中佐牧村孝三郎提出敷設水雷操式ノ儀本所ニ於テ實地研究ノ上何分ノ意見可申出旨御下命ニ付海軍少佐諸方於菟男、海軍大尉徳田道藏外二名(海軍兵曹長 小野榮雄)ニ委員ヲ命ジ實地研究セシメ候處別冊ノ通意見提出致候小官ニ於テモ同意見ニ有之候條別冊改訂意見書相添此段報告候也(別冊改訂意見略)

叙上ノ經過ニ依リ發布セラレタル敷設水雷操式ノ内容梗概ヲ示セバ左ノ如クニシテ將來ノ基礎ヲ爲セルモノナリ

第二編 要 具

第一章 電 纜

- 一、電纜ノ種類及用途
- 二、電纜端ノ團塊製作
- 三、電纜接合
- 四、電纜心線端ノ隔離
- 五、電纜池ニ電纜出入
- 六、接續函ノ種類及用途

第二章 綿火藥及爆發信管

- 一、綿火藥ノ種類及用途
- 二、綿火藥ノ比勢力
- 三、乾綿火藥ノ検査
- 四、濕綿火藥ノ検査
- 五、濕綿火藥ノ水分含蓄
- 六、信管ノ種類用途

第三章 敷設水雷

- 一、敷設水雷ノ種類及用途
- 二、水雷ノ裝藥量
- 三、各種水雷ノ安全距離及沈下深度
- 四、各種水雷ノ毀害半徑
- 五、電路啓閉器ノ用途
- 六、電路啓閉器機ノ種類
- 七、底片準備

- 八、錘量ノ種類及用途
- 九、繫維索及「ツリツピングチエーン」

第四章 探海電燈取扱

第五章 電話器

- 一、電話器ノ種類及用途
- 二、電話器取扱

第六章 水雷要具ノ貯蔵及検査

- 一、貯蔵
- 二、定期検査

第三編 水雷敷設準備

第一章 通 則

第二章 諸要具ノ準備

第三章 符合附著

第四章 水雷準備

- 一、導火藥裝備
- 二、導火藥電閉器(電路啓閉器機)ノ接合及試験等
- 三、綿火藥裝填
- 四、水雷裝備
- 五、水雷接合
- 六、枝線式電氣觸發水雷接合操練
- 七、電路啓閉器附浮標水雷接合操練
- 八、水雷接合解方操練
- 九、水雷搭載操練
- 十、衛所整備
- 十一、衛所用電池ノ種類及用途
- 十二、位置浮標投入
- 十三、本電纜敷設

第四編 水雷敷設

第一章 通 則

第二章 水雷敷設操練

- 一、枝線式電氣觸發浮標及海底水雷敷設操練
- 二、水雷揚收操練
- 三、水雷若クハ位置浮標沈置時ニ於ケル視發室長ノ職務
- 四、接續函傳馬ノ職務
- 五、敷設時ニ於ケル試験室長ノ職務

第五編 試験及發火

第一章 通 則

第二章 試験室用諸要具

第三章 試 驗

- 一、一般試験
- 二、諸水雷日々ノ定式試験

第四章 闘 圖

- 一、試験室及視發室ノ平素狀態
- 二、戦闘用意
- 三、發火

即チ本操式ノ内容ハ現時ノ操式、敷設操式、敷設及取扱教範等ノ大部ヲ包含セルモノナルヲ見ルベシ
爾後ニ於ケル改定及新ニ發布セラレタルモノ左ノ如シ

年 月	關係令達	呼 稱 (摘 要)	理 由 記 事 等
大正五年三月	内令 第五十六號	甲種機械水雷操式草案 乙種機械水雷操式草案 視發水雷操式草案ヲ各制定ス	機械水雷ニ關スル操式ヲ制定ス 視發水雷操式ハ其ノ内容ヲ現操式ノ體裁ニ改メ教範的 事項ヲ削除ス三十四年制定敷設水雷操式ハ之ヲ廢セリ 甲種機械水雷操式草案ハ爾後機雷操式草案ト改稱セ ラル
大正七年三月	内令 第七十一號	機雷操式草案中一部ヲ改正ス	機雷教範草案ノ改正ニ伴ヒ且大正五年以降研究ノ結果 改正ヲ認メタルニ依ル
大正十年二月	内令 第五十三號	機雷操式ヲ定ム	理由等〔補記(一)〕ノ通、大正五年ノ同草案ヲ廢ス
大正十一年三月	内令 第九十八號	機雷操式中ヲ改ム	使用ノ結果改定ヲ要セルニ付
大正十二年三月	内令 第五十二號	一號機雷操式草案ヲ改ム	現用操式草案ノ制定以來敷設裝置其ノ他ニ改良ヲ加ヘ タル點多キノミナラズ一般操作上ニ於テモ實施ノ點ニ 鑑ミ改定ノ必要ヲ認メシニヨル
大正十三年二月	内令 第四十號	機雷操式ヲ改定ス	理由等〔補記(二)〕ノ通
昭和二年十二月	内令 第四百十一號	機雷操式ヲ定ム	前操式ニ改正ヲ加ヘ新ニ敷設指揮ニ關スル操式ヲ追加 ス内容〔補記(三)〕ノ通
同	内令 第四百四十三號	爆雷操式草案ヲ試用ス	爆雷ニ關スル操式制定ノ要アルモ猶研究未済ノ點アル ヲ以テ先ヅ草案トシテ發布ス爆雷攻撃法ニ關スル教範 ハ追テ發布ノ豫定





昭和四年二月	内令第三十九號	爆雷操式草案中テ改ム	艦内編制令ノ改正ニ伴ヒ所要ノ改正ヲ行フ
同	内令第四十一號	機雷操式中テ改ム	一、同 右 二、機雷ニ漏電アル場合共ノ處置ヲ明示ス

〔補記(一)〕

大正九年二月内令第五十三號ニ依リ機雷操式ヲ制定シ從來ノ機雷操式草案(大正五年内令第五十六號ニヨルモノ)ヲ廢セリ之レ數年來草案ヲ使用シタル結果之ヲ決定スル時機ニ達セシテ以テナリ草案ト比較シ改正ノ要旨トスルトコロ左ノ如シ

一、草案ニ於テハ一個ヲ組立ツルニ微細ナル調整試驗等ヲモ操法ニテ規定セシモ左記理由ニ依リ之等ハ準備作業トシテ豫メ行フテ適當ト認メ之ヲ改正セリ

(イ) 組成品ノ各部ノ微細ナル調整試驗ヲ協同作業ニテ行フハ一旦故障等ノ起ル場合ニ當リ協同一致ノ實ヲ擧グルコト至難ナルノミナラズ操法ヲ破ルコトトナルコト

(ロ) 諸調整ハ慎重ニ行フテ要スルモノナルニ協同動作ニ依ルトキハ此ノ要求ヲ充サレ難キコト

二、機雷裝備後敷設ヲ行フ迄ニ相當時日ヲ隔ツル場合不慮ノ出來事ニ對シ安全ヲ期スル爲導火藥筒ノ裝備ヲ行ハザルコトヲ規定ス

三、前項竝ニ一般ノ要求ニ依リ機雷ノ各種狀態ニ對スル定義ヲ設ケ機雷ノ現狀ヲ瞭然タラシメタリ

四、敷設準備操法及敷設操法ハ敷設艦船ノ種類毎ニ分類シテ定メタリ艦船ニ依リ敷設裝置ヲ異ニスルヲ以テナリ

〔補記(二)〕

大正十三年二月内令第四十號ニ依リ機雷操式ヲ改定ス改正ノ要旨左ノ如シ

舊操式ハ單一機雷ノ裝備ニ基調ヲ置クヲ以テ各裝備員ノ操作複雑ニ過キ分擔操作ノ關聯圓滑ヲ缺キ多數機雷ノ連續裝備ニ適セス新操式ハ分業主義ニ則リ裝備能率ノ増進ヲ期セムガ爲現用機雷ノ構成竝ニ其ノ互換性ニ鑑ミ裝備員ノ編成數ヲ二倍(十名)トシ分

業裝備ニ適應スル如ク改案セルモノナリ

新操式ノ目次左ノ如シ

總 則

第一章 機雷操法

第一節 通 則

第二節 裝備操法

第三節 敷設準備操法

第四節 敷設操法

第二章 教 練

〔補記③〕

機雷操式内容(昭和二年
内令第四二號) 摘要

綱 領

機雷戰ノ要訣ハ陰密潛行、好機ニ乘ジ迅速正確ナル敷設ヲ遂行スルニ在リ之ガ爲最確實ナル施設操作ト適切ナル敷設指揮トヲ要ス
各員ハ先ヅ機雷教範竝ニ機雷敷設教範ニ通曉シ且本操式ヲ嚴守シ以テ機雷威力ノ發揮ニ遺憾無キヲ期スベシ

第一章 總 則

第二章 裝備落下操式

第三章 敷設指揮操式

第四章 教 練

